

3/6 ルカの福音書 19 章 1-10 節 「失われた者を捜して救うために」

小池 宏明 牧師

主イエス様とザアカイとの出会いは、主が十字架にかかるためにエルサレムへ入られる直前のことだった。ザアカイには「正義」という意味があるが、彼は決して正しい人ではなかった。むしろ「罪人」と呼ばれていた。

*ザアカイとイエス様との出会い

ザアカイは、豊かなエリコの町の取税人のかしらで、大金持ちであった。(税金を集める職業自体が非難される必要はない) ローマ帝国に支配されていた当時のユダヤ人は、ローマの手先として税金を取り立てている取税人を「異邦人」「罪人」などと呼んで、忌み嫌っていた。今回の箇所でも同様だ。そんなザアカイは、有名なイエスという男が来ていると聞いて、一目見たいと思って、少年のように先回りして樹に登った。イエス様は彼に声を掛けた。5 節「イエスは…上を見上げて彼に言われた。「ザアカイ、急いで降りて来なさい。わたしは今日、あなたの家に泊まることにしているから。」「泊まることにしているから」とは、直訳すれば「泊まらなければならない」「泊まる必要がある」という強い断定的な表現だ。ここに主イエス様の情熱的なご愛と聖なる選びが現れている。「主のご愛」と言えば、イエス様は樹に登っている男の名前を知っていた。「罪人」などと呼ばれて来た男が「ザアカイ」と親しく声をかけられた。嬉しくて嬉しくて、6 節「ザアカイは急いで降りて来て、喜んでイエスを迎えた。」新しい歩み始めるザアカイの姿が印象的だ。

*ザアカイの新しい出発

8 節「…ザアカイは…主に言った。「主よ、ご覧ください。私は財産の半分を貧しい人たちに施します。だれかから脅し取った物があれば、四倍にして返します。」」ザアカイは、主体的に主イエス様の前で約束した。旧約律法の規定によれば、だまし取ったものは 1.2 倍にして返すことになっている。ところが、彼は「4 倍にして返す」と約束した。これは、「強盗」の場合に匹敵する賠償なのだ。信仰は「行い」を伴うものである。ザアカイは、キリストの愛に動かされ、自ら律法の規定以上に行なう者と変えられた。律法から解放された生き方ではないだろうか。9、10 節「イエスは彼に言われた。「…人の子は、失われた者を捜して救うために来たのです。」」ザアカイは、主の言葉を信じ、主の愛に触れて、深い悔い改めと共に、主を受け入れたので「救いが来た」のだ。ザアカイは、名づけられた名前の通り、義と認められ「義人」となった。ザアカイは、イエス様を見ようと捜していたが、名前を呼んで降りて来るようにと御声を掛けられたのは主イエス様だった。人を捜し求め、救い出すことができるのは、主イエス・キリストだけなのだ。